

千葉国際芸術祭実行委員会第8回総会 議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日 時

令和8年7月28日（火） 午前10時00分～午前11時00分

2 開催場所

千葉市役所本庁舎 高層棟4階 幹部会議室

3 出席者

（委員）神谷委員長、佐久間副委員長、磯野委員、宍倉委員、深山委員、山梨委員、折原様（足立委員代理）、臼坂委員、山元委員、久保様（横手委員代理）、藤澤様（小川委員代理）、脇本様（三島委員代理）、中島様（鶴岡委員代理）、市倉委員、安部委員、橋本委員

（部会）水沢議長

（総合ディレクター）中村政人氏

（事務局）江寺生活文化スポーツ部長、吉野文化振興課長、千羽文化振興課長補佐、横山文化振興班主査、野口主事、野中主事、石川主事、布谷主事

4 報 告

（1）千葉国際芸術祭 2025 実施報告について

5 議 題

（1）議案第1号 令和7年度収支決算（案）について

（2）議案第2号 「千葉国際芸術祭 2028（仮称）」総合ディレクターの選任について

（3）議案第3号 令和8年度収支予算（案）について

（4）議案第4号 部会への諮問について

6 議事等の概要

（1）千葉国際芸術祭 2025 実施報告について

千葉国際芸術祭 2025 の開催実績、評価及び今後の課題について報告を行った。

（2）議案第1号 令和7年度収支決算（案）について

令和7年度収支決算について説明及び監査報告を行い、原案のとおり承認を受けた。

（3）議案第2号 「千葉国際芸術祭 2028（仮称）」総合ディレクターの選任について

部会の答申に基づき審議を行い、中村政人氏を総合ディレクターとして選任した。

（4）議案第3号 令和8年度収支予算（案）について

令和8年度収支予算について説明を行い、原案のとおり承認を受けた。

（5）議案第4号 部会への諮問について

「千葉国際芸術祭 2028（仮称）」令和8年度実施計画を部会へ諮問することについて、原案のとおり承認を受けた。

7 会議経過

[報告 千葉国際芸術祭 2025 実施報告について]

【神谷委員長】

それでは、次第に従い議事を進めます。はじめに、報告「千葉国際芸術祭 2025 実施報告」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神谷委員長】

ありがとうございました。ただいま事務局より説明がありました実施報告について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【深山理事長】

アンケート調査について伺います。千葉市教育振興財団が運営している美術館について、美術館に来館する方々の反応は把握できますが、市民全体として、美術や芸術にどの程度関心があり、それがどのような行動につながっているのかを把握することはなかなか難しいと感じています。今回の会場アンケートは、実際に芸術祭へ来場した方を対象としているため、参加したことによる効果は分かります。一方で、来場していない方を含む市民全体の本芸術祭に対する反応については、どのように捉えればよいのでしょうか。

【吉野課長】

本アンケートは、市民全体から無作為に対象者を選んで行ったものではありません。ただし、今回のアンケートでは、市民を中心に、実際に参加した方からご意見をいただいています。その結果、参加した市民にとっては、本芸術祭を通じて芸術を身近に感じる機会となり、まちの価値を改めて感じていただく機会にもなったと受け止めています。

【深山理事長】

市民全体を無作為に対象とした調査はないということですね。市民全体を対象とする調査は、世論調査と同様に非常に難しいと思います。美術館としても、市民にどのように受け止められているかを具体的に把握することに課題を感じています。ご説明の内容で理解しました。ありがとうございます。

【神谷委員長】

ほかにご意見、ご質問はありますか。

<質問・意見なし>

【神谷委員長】

ないようですので、報告事項は以上とし、議題に移ります。

[議案第1号 令和7年度収支決算（案）について]

【神谷委員長】

議案第1号「令和7年度収支決算（案）」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神谷委員長】

ありがとうございました。続いて、資料 2－2 の監査報告書をご覧ください。小川監事及び橋本監事の監査結果が記載されています。本件について、橋本監事から監査報告をお願いします。

【橋本委員】

令和 8 年 7 月 9 日に監事の小川委員と橋本が、千葉国際芸術祭実行委員会規約第 6 条第 3 項の規定に基づき、令和 7 年度の出納その他の会計事務について関係書類を監査した結果、収入、支出とも適正かつ確実に処理されていることを確認しましたので、報告します。

【神谷委員長】

ありがとうございました。それでは事務局から説明がありました令和 7 年度収支決算（案）について、ご質問等がありますか。

<質問・意見なし>

【神谷委員長】

ご意見、ご質問がないようですので、議案第 1 号を原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

<異議なし>

【神谷委員長】

異議なしと認め、議案第 1 号は原案のとおり決定しました。

〔議案第 2 号 「千葉国際芸術祭 2028（仮称）」総合ディレクターの選任について〕

【神谷委員長】

続いて、議案第 2 号「「千葉国際芸術祭 2028（仮称）」総合ディレクターの選任」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神谷委員長】

ありがとうございました。ただいま事務局より説明がありました「千葉国際芸術祭 2028（仮称）」総合ディレクターの選任について、千葉国際芸術祭実行委員会部会の水沢議長から、部会での審議内容をご意見をご紹介します。水沢議長、よろしくお願いします。

【水沢議長】

千葉国際芸術祭実行委員会部会では、7 月 17 日に第 9 回部会を開催し、総合ディレクター候補について審議しました。次期芸術祭の方向性を決める上で総合ディレクターの選定は極めて重要であるため、千葉国際芸術祭 2025 の成果と課題を踏まえ、慎重に検討しました。

千葉国際芸術祭 2025 では「地域との連携をより早い段階から進める必要があった」などの課題もありました。しかし、第 1 回の芸術祭を立ち上げるには多くの時間が必要であり、新たなディレクターに交代する場合には、千葉市や地域について学ぶ時間が改めて必要になります。むしろ、課題を中村政人氏自身が自覚し、次回に向けて継続的に改善し、発展させる能力があると部会として判断しました。その結果、千葉国際芸術祭 2028（仮称）の総合ディレクター候補として、中村政人氏を選定するとの結論に至りました。

私個人としては、千葉国際芸術祭 2025 のアーカイブブックを是非見ていただくと、各プロジェクトの編集も含め、非常によくまとまっていると感じており、「ち」の文字を用いたビジュアルや「ちら、ひらく。」という言葉は強い印象を与えるものであり、芸術祭の発信力を高め、千葉市らしさを

示すことにもつながったと考えています。限られた期間の中でも、芸術祭の存在感を示したものと受け止めています。これらの成果を踏まえ、中村政人氏が引き続き取り組むことを期待しています。以上です。

【神谷委員長】

ありがとうございました。総合ディレクターの選任について、ご意見、ご質問はありますか。

<質問・意見なし>

【神谷委員長】

ご意見、ご質問がないようですので、部会からの答申に基づき、議案第2号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

<異議なし>

【神谷委員長】

異議なしと認め、議案第2号は原案のとおり決定しました。それでは、総合ディレクターとして選任された中村政人氏に入席いただきます。

<中村総合ディレクター入室>

【神谷委員長】

それでは、総合ディレクターとして選任された中村様からご挨拶をいただきたいと思います。中村総合ディレクターよろしくお願いします。

【中村総合ディレクター】

第1回の千葉国際芸術祭の総合ディレクターを担当する中で、市民の皆様、アーティスト、地域でプロジェクトの運営や調整に関わった方々から様々な声をいただきました。アートという言葉が持つ寛容さと批評性、そして多様な表現を受け止める力が必要であることを強く実感しました。また、実際に受け止めてくださる方々が千葉市にいたからこそ、本芸術祭に係るプロジェクトを前に進めることができました。

今回は、従来の観光型の芸術祭とは異なる、市民参加型の芸術祭を目指し、その手応えをしっかりと感じています。創造することは、単にアーティストやアート関係者だけに留まるものではなく、創造すること自体がまちのエネルギーとなり、それは広く産業界全体を考える上でも、どのような場所や仕組み、企業においても、創造する力が必要になると考えています。その力を受け止めることが、まちの活力につながると考えています。

市長をはじめ、様々な方に本芸術祭へ参加していただきました。子どもたちは、ワークショップで未来の千葉市への思いを模型として形にしながら、自分と千葉市の関係を考えました。また、市民の方々からご提供いただいた素材を作品制作に活用するとともに、これまで使われていなかった場所をお借りし、展示会場として活用しました。本芸術祭ではこのような場所を「アーツフィールド」と呼んでいました。価値が見えにくい場所にアートプロジェクトが入ることで、その空間や地域資源、人と人との関係、社会的なつながりが持つ可能性が見えてきます。アーツフィールドを広げることで、空間そのものが創造的な場へ変わることを目指し、アーティストとの対話を重ねながら、場所の可能性に応じたアクションを組み立ててきました。

千葉国際芸術祭2025の課題は多くあると認識しており、例えば非常に広い地域でプロジェクトが展開されたため回遊が難しいことや、会場の近くに行っても場所が分かりにくいことなどがありまし

た。ただし、市民参加型という方向性は重要であり、間違っていないと考えています。次回芸術祭に向けては、市民の方々がプロジェクトにもう一步踏み込み、自らの創造性や可能性に挑戦する人が増えてほしいと考えています。

そのため、今年度は、千葉芸スクールという形で、市民が学ぶ機会を設けたいと考えています。予算と時間も限られているため、これから芸術祭のスタッフになりたい方、ボランティア活動からもう一步踏み込みたい方、会社の中で創造的なプログラムを取り入れたい方など、様々な思いを持つコアとなる方々を受け止める枠組みを作ります。通年で人材育成に取り組み、2028年の本会期で活躍できる人材を増やしていきたいと考えています。

次期芸術祭を経たその先には、市民だけでなく、企業、団体、学校の方々にも「千葉国際芸術祭の場で自分たちもこのようなことをしたい」と思っていただけのように、芸術祭をさらに発展させる必要があると考えています。第1回の芸術祭を実施したことで、文化政策における新たな切り口が見えてきたと考えています。芸術が、芸術のためだけに存在するのではなく、人の生き方や創造性そのものを刺激し、人間性の豊かさや、創造する喜びを感じていただきたいという思いがあります。

大役ですが、改めて挑戦させていただきますので、実行委員の皆様にもご自身の創造性のスイッチを入れていただき、それぞれの組織において、新たな取組を寛容に受け止めるとともに、場所や人材などの面でご協力いただきたいと思います。また、千葉市の皆様には、「もっとこうした方がよい」

「このようなことをやりたい」といったご意見を、積極的に寄せいただきたいと思います。多様な表現を寛容に受け止める力と、よりよくするために意見を交わす批評性が両立する芸術祭を目指します。引き続きよろしくお願いします。

【神谷委員長】

ありがとうございます。第1回の芸術祭の成果と課題を踏まえ、今後の方向性をお示しいただきました。私自身も、アーカイブブックに掲載されている石膏で身体の型を取るプロジェクトに参加し、プロジェクトを通じて、市民との向き合い方について改めて考えるとともに、文化施策の重要性を実感しました。次期芸術祭においても、委員の皆様にはぜひお力添えをいただきたいと思います。

【議案第3号 令和8年度収支予算（案）について】

【神谷委員長】

続いて、議案第3号「令和8年度収支予算（案）」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神谷委員長】

ありがとうございます。中村総合ディレクターから、追加のご説明をお願いします。

【中村総合ディレクター】

千葉開府900年という節目の年に、大きなアートプロジェクトを一つ実施し、イベントとして見せる方法も考えましたが、今回は、市民の方々が一步踏み出して学び、自分の思いを誰かと一緒に考える機会をつくることが重要であると考えました。

現在、アート思考やデザイン思考など様々な学びの方法がありますが、AI時代において、人間性そのものや、どのような社会、未来をイメージするかという創造力が、より重要になっています。千葉開府900年という節目の年にスクール事業を展開することで、千葉市を取り巻く社会環境や働き方、家族とともにまちでどのように楽しく暮らしていくかといった、様々な可能性や課題について考え、まちの中に入りながら、人や場所との出会いを通じて学んでいくことを目指します。

千葉芸スクールでは、取組のプロセス自体を学びと捉えます。こうした学びを継続することで、芸術という枠に限定されない人材を幅広く育成していきたいと考えています。

【神谷委員長】

委員の皆様から、令和8年度収支予算（案）及び千葉開府900年記念事業について、ご意見、ご質問をお願いします。

【臼坂局長】

ご説明ありがとうございました。当初、千葉開府900年記念事業と千葉国際芸術祭がどのように結び付くのかという疑問がありましたが、ご説明を伺い、理解しました。単に900年という節目だけを祝うのではなく、その先を見据えた取組であり、900年の先に向けた人材育成という意味も込めて、この予算を計上しているという理解でよろしいでしょうか。

【吉野課長】

おっしゃるとおりです。千葉開府900年という節目を一過性のものにせず、人材を育成することで将来につなげていくことを狙いとして、本事業を実施したいと考えています。

【臼坂局長】

分かりました。ありがとうございます。

【神谷委員長】

ほかにご意見、ご質問はありますか。

<質問・意見なし>

【神谷委員長】

ないようですので、議案第3号を原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

<異議なし>

【神谷委員長】

異議なしと認め、議案第3号は原案のとおり決定しました。

〔議案第4号 部会への諮問について〕

【神谷委員長】

続いて、議案第4号「部会への諮問」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神谷委員長】

ありがとうございました。ただいま事務局より説明がありました部会への諮問について、ご質問はありますか。

<質問・意見なし>

【神谷委員長】

ご質問がないようですので、議案第4号「部会への諮問」について、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

<異議なし>

【神谷委員長】

異議なしと認め、私から諮問します。諮問書を水沢議長にお渡しします。

＜神谷委員長から水沢議長へ諮問書を手交＞

【神谷委員長】

予定していた議案を全て議決することができました。円滑な進行にご協力いただきありがとうございました。今後も委員の皆様をはじめ、市民、企業、団体など、千葉市に関わる全ての方々とともに千葉国際芸術祭に取り組んでいきたいと考えています。引き続きご協力をお願いします。